



12月は家族月間です。皆様この一年間、日々奉仕に励んでこられたこととは思いますが、一年の締めくくりの月にあたり、社会生活の最小単位である家族に思いをはせることは、来るべき新年の方向性を考える上でも非常に有意義なことであると考えます。

まずはロータリー活動に存分に取り組んでいただく大前提として、皆様のご家庭が平穏かつ円満でなければならないことは、改めて申し上げるまでもありません。その上で、あなた自身にとって一番身近な奉仕の対象であるご家族——配偶者やご両親、ご子息、ご親族（お孫さんなど）——に対して、望まれている奉仕が実践できているか、再確認してみることも大切でしょう。さらにはあなたがロータリーで学び、身につけようと努力している奉仕の心を、最も近くにおられるご家族の皆さんにしっかりと伝えられているかを考えてみることも意味があると思います。

そしてまたロータリークラブでは、世界中のロータリアンとその家族のみならず、ローターアクターやインターア

クター、青少年交換学生や米山奨学生たちも含めて「ロータリー家族」としての心を開いた交流を奨励しています。こうした人たちと文字通り「家族同様」のお付き合いを「家族ぐるみで」続けていくことができれば、まさに皆さんの家族はどんどん広がり、より幅広い奉仕へとつながっていくことでしょう。

ロータリーでは「超私の奉仕」と申しますが、「我」すなわち自分自身のことを何もかもそっこのけで奉仕のためにすべてを犠牲にするのは非常に困難であり、長続きはしないと思います。それと同様に「我々」つまり家族も、奉仕の足元としてしっかり見つめ直したいものです。これまで「家族そっこのけで仕事に没頭してきた」という方もおられるかもしれませんが、仕事に没頭させてくれた家族に対しても、恩返しを忘れてはなりません。

寒さが厳しさを増すこの季節、家族のぬくもりやあなたかみをもう一度実感しつつ、新しい年も奉仕に取り組むことができる環境をしっかりと整えてこの一年を締めくくりたいものです。



ガバナー補佐の皆さんと